

循環型社会を支える3つの柱と3つの市民

(1) 3つの柱

①技術

生産技術に比べて大幅な遅れ

最近になってようやくリサイクル技術への関心が高まり研究が進む

リサイクル技術

(ア) 循環資源の利用拡大

例えば・・・紙

1999年 日本での紙の使用量は3,054万トン（うち、56%が回収される）

製紙原料のうち古紙の利用は54.9%

（残りの45.1%は木材から作られるパルプ）

古紙の利用率をもっと高める（上限は65%と言われている）

例えば、新聞紙

- ・紙から紙へ
- ・紙から建材へ
- ・紙から炭へ
- ・紙から家畜用敷量へ
- ・水分の多い泥を、乾燥、固化する処理材
- ・埋め立て地で使う土の変わりのカバー材
- ・下水や工場排水を処理する補助材 など

(イ) リサイクルに要するエネルギーやコストの節約

(ウ) リサイクル関連事業の公害の防止

②経済

(ア) インバース・マニュファクチュアリングと静脈産業の育成

(イ) リサイクルコストとごみ処理コストの一体化

(ウ) サイクルコストとごみ処理コストの製品価格への内部化

(エ) グリーン調達と循環資源の需要の拡大

(オ) ごみ処理の有料化

(カ) リサイクルの国際化の推進

③コミュニティ

学校、地域社会、市町村、会社、工場、国、アジア、地球